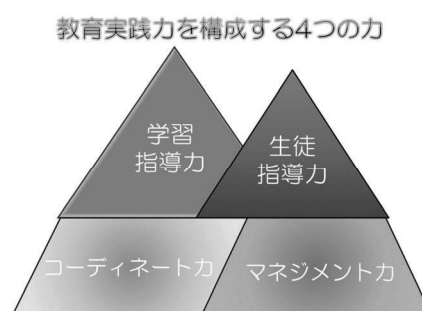


3. 本学教職課程が育てる教師力 —教育実践力を構成する4つの力

教師力とはいったいどのように捉えることができるのでしょうか。学校が抱える課題の多様化、複雑化の中で多忙を極めている学校現場において、今まで以上に即戦力のある教師を求める声が増えています。「即戦力」というと、例えば、教科内容の知識をたくさん持っている、教え方がうまい、生徒の問題行動への対応ができる、といった技術的で目に見えやすいことに重点を置きがちです。しかし、確かな教育の実践のためには、「コーディネート力」と「マネジメント力」に支えられた「学習指導力」と「生徒指導力」が必要です。教育実践力は、これら4つの力で構成され、互いに関わり、影響し合っている総合的な力です。本学では、「学習指導力」「生徒指導力」「コーディネート力」「マネジメント力」の4つからなる教育実践力を4年間でバランスよく段階的に身につけることで、高い教育実践力を備えた教師の育成を行います。

ところで、4つの力にはさらに4つの下位項目があります。それぞれについて、以下に解説しましょう。



(1) 学習指導力

学習指導力を構成する4項目は次のとおりです。

①学習状況の把握力

子どものレディネスや学習状況を把握する力

②授業設計力

学習指導要領や教育課程をふまえて、学習指導案を作成する力

③授業実践力

様々な指導法を活用して、子どもの学習状況に応じた授業を実践する力

④授業の分析・省察力

自他の授業実践を分析し、授業の改善点を発見する力



教員になるためには、まず何よりも学習指導力を身につける必要があります。生徒が学ぶ楽しさを味わい、わかる喜びを体験できるように、教師は社会や文化をより深く理解し、生徒の学習を指導する力を身につける必要があります。

学習指導では、生徒の心身の発達の段階や特性を充分考慮するとともに、領域や教科・単元等のねらいや目標を理解したうえでこれを達成できるよう、計画的に指導を行うことが重要です。

教育実習等の学校現場で学ぶ機会を与えられた時には、学ぶ側の生徒と、指導する側の教師のそれぞれの立場から、次に示す視点で授業の様子をしっかりとらえて、自分自身の授業を計画・実施する時に活かすことができるようにしましょう。

- ①生徒の学習に対する興味・関心の持ち方と、教師の指導や支援
- ②生徒の学習活動の様子（状況）と、教師の指導や支援
- ③ねらいや目標を達成するために準備された環境や教材の役割と、教師の指導や支援
- ④生徒の発達段階や個に応じて工夫された教師の指導や支援
- ⑤①～④の校種や学年等による違い

教師が行っているひとつひとつの指導や支援には、それぞれ意味や意図があります。それらは学習の中での生徒の様子（状況）と関連付けることで見えてきます。授業観察の際は、目の前の事象にどのような意味や意図があるのか、問題意識を持って観察・参加してみましよう。

教育実習では、大学で学んできた学習指導の目標・内容・方法に関する理論と、学校現場で行われる実践とを往還し、実践的な学習指導力を身につけることが大切です。

なお、学習指導力を構成する力には、前の4項目の他に「教材分析力・教材開発力」が必要です。「①学習状況の把握力」とともに、教材を分析し、作り出す力である「教材分析力・教材開発力」に基づいて、「②授業設計力」が生み出されます。しかし、教育実習の期間はわずかに2～4週間と限られていますから、「教材分析力・教材開発力」を十分に深めることができません。そのため、ここでは項目として設定していませんが、「教材分析力・教材開発力」は専門教育科目と各教科の教科内容概論等を通して身につけることができますから、所属学部での取組を深めるようにしてください。

（2）生徒指導力

生徒指導力を構成する4項目は次のとおりです。

①子どもの発達的特徴を理解する力

子どもの発達的特徴を、心と体、言語・社会性等の発達理論を踏まえて総合的に理解する力

②子どもの生活の実態を理解する力

子どもの基本的な生活習慣の実態、学校・家庭・地域での遊びや生活の様子、人間関係等を理解する力

③コミュニケーション力

子どもと共感的にコミュニケーションする力、並びに、子ども同士のコミュニケーションづくりを指導する力

④学校・学級での生活を指導する力

子ども理解に基づいて、基本的な社会規範やルールを守り、子どもが楽しく学校生活を送れるように指導する力

学校教育の役割は、学習指導だけではありません。生徒の人格を完成させていくという学校教育の目的・目標を達成するためには、一人一人の人格を尊重し、個性の伸長を図りながら、社会的資質や行動力を高めるように指導、支援する生徒指導が不可欠です。

皆さんも、今まで人に理解され支えられることで、喜んだり安心したりした経験があると思います。学校における生徒指導は、生徒理解にはじまります。教師が一人一人の生徒を心から理解しようとすることで、生徒が意欲的になり前向きに課題に取り組んだり、安

心して楽しく学校生活を送ったりすることができます。また、教師が生徒を理解しようと一生懸命に取り組めば、生徒もそういった教師を理解しようとしめます。

教師と生徒の関係は、相互理解や支え合いに基づいています。教師は、生徒の成長を喜び、自らの仕事に対するやりがいを感じ、職能のさらなる向上や自己実現に向かっていく、それが教職の世界です。

具体的には、生徒の基本的な生活習慣の実態や人間関係などを理解し、基本的な社会規範やルールを守れるよう指導することが必要です。さらに、ネットいじめや問題行動などの課題があることを理解し、学校内外の生活に目を向ける必要があります。

教育実習においては、単に生徒を注意深く観察するといった態度では、生徒指導力を身につけることはできません。生徒指導力を身につけていくために、実習以前にできることは何かについて考えておくことが大切です。

例えば、実習校の生徒指導の学校全体目標や指導計画、今年度の重点的指導内容を理解しておくことや、実際の指導場面における教師の動きや教師相互の連携の仕方を観察の視点に設定する、生徒とのあいさつや会話を実習の重点目標にするなど、十分に事前の準備をしましょう。実習後には、理解や経験した内容について、実習生同士で話し合い、学びを深めましょう。

教育実習では、こうした事前の生徒指導に関する学習と教育現場で行われる実践とを往還し、実践的な生徒指導力を身につけることが大切です。

(3) コーディネート力

コーディネート力を構成する4項目は次のとおりです。

①実習生同士で協働する力

実習生同士で学習指導や学級経営等に協働して取り組む力

②実習校の教職員とつながる力

指導教員をはじめとする実習校の先生方とコミュニケーションし、共同的、協調的につながる力

③協力者・連携機関を理解する力

学校を支援する協力者・専門機関等との連携・協力の現状を理解する力

④保護者・地域とつながる力

来校される保護者や地域の方とコミュニケーションし、共同的、協働的につながる力

学校教育は教員個人の力だけで成り立つものではなく、多くの協力者によって成り立っています。より良い教育実践を行っていくためには、教員は自身の力に一層の磨きをかけることはもちろんですが、他の教職員とも連携・協力することが必要です。

例えば、中学校には一般的に校長・副校長・教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、栄養教諭、事務職員などの教職員がいます(表1)。その他にも学校には、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー、学校医、学校歯科医、学校薬剤師などの非常勤専門職員がいます。こういった他の教職員と連携・協力していくことも教員には必要であり、連携・協力のためには、自分自身が相手と常日頃からコミュニケーションをとることも必要になってきます。

表1 学校教職員の主な職務

職名	主な職務
校長・副校長・教頭	学校経営・学校教育の管理・教職員の管理育成
主幹教諭	校長及び教頭を助け、命を受けて校務の一部を整理し、並びに児童の教育をつかさどる
指導教諭	指導教諭は、優れた指導力を生かして、示範授業を行うことなどにより、指導方法の改革を行う
教諭	学習指導・特別活動など学習外の指導・学級学年経営など
養護教諭	保健管理・保健教育・保健室経営など
栄養教諭	児童生徒等の「栄養の指導及び管理をつかさどる」教員、その専門性を生かし、食に関する指導の全体計画の作成等で中心的な役割を果たす
事務職員	学校事務・学校運営への参画

また、学校内だけでなく、学校外にも目を向け、教育実践に有効な教育資源を見出し、見出した教育資源を教員自身がアレンジしたうえで、協力を得られるよう働きかけることが重要になってきます。そのためには、まずは協力者としてどのような人々が存在するのかを理解しておくことが必要です。

教員にとって重要な協力者として、生徒の保護者、地域の人々が挙げられます。保護者や地域の人々と連携・協力するには、例えば、地域の特色は何か、保護者のニーズは何か、得意分野は何かなどを常日頃から理解しておくことが必要です。保護者会や地域の行事等を積極的に活用し、連携・協力の素地を日頃から築きましょう。またその他に、児童福祉施設や病院など生徒や家庭に関わる専門機関と連携していくことも求められています。

教育実習では、コーディネート力の基礎として、人と人、組織と組織それぞれのつながりの実態を学び、様々な人・組織とつながる力を身につけることが大切です。また、学校における教師の動きをよく観ておくことも大切です。保護者の方々や来校者の方々には、必ずあいさつをするよう心がけましょう。

なお、教育実習においては、実習先に自分以外の実習生がいないことも想定されます。その場合は、他校の実習生と情報交換したり、教育実習以外の場で日頃から教職を目指す学生同士で協同するなどし、力を高めていきましょう。

(4) マネジメント力

マネジメント力を構成する4項目は次のとおりです。

①セルフマネジメント力

自分自身をコントロールし、意欲と課題意識を持って実践に取り組む力

②専門職マネジメント力

教員の使命や職務について理解し、専門職として求められる資質・能力等をマネジメントする力

③学級・学年マネジメント力

学級・学年目標の実現に向けて、子どもの組織や活動をマネジメントする力

④学校マネジメントを理解する力

学校教育目標の達成に向けて、学校組織の活動内容や運営について理解する力

教師には、自分自身をコントロールし、専門職として求められる資質能力をマネジメントする力が求められます。また、学校目標や学級目標の達成に向けて生徒の活動や学校組織をマネジメントしていく力が必要です。すなわち、自身の成長や学校・学級で生じる様々な教育課題の改善、学校目標の達成といったことに向け、マネジメント・サイクルを効率的かつ効果的に回すことのできる力が必要です。

マネジメント・サイクルとは、Plan（計画）－ Do（実行）－ Check（評価）－ Action（更新）のPDCAサイクルです。学校では、学校教育目標に基づき、教職員が一致団結してこのマネジメント・サイクルを導入した学校・学級運営が行われています。

教育実習では実習校でPDCAサイクルがどのように実施されているかという具体や工夫点をしっかり見取ってください。また、実習校の教育目標を予めよく理解しておくことや、教員の使命や職務についての理解や専門職としての生き方を学習することが必要です。

例えば、生徒の健康と安全を守ることは学校の責務であり、一人一人の教師が常に配慮しなければならないことです。また、生徒は教室の中だけで教育されているわけではありません。教育環境によって、教育されている部分もありますので、学校の教育環境を自分の目でしっかり観察してください。いくつか、その視点を挙げておきます。

- ①教室はどこに配置されているか
- ②運動場やプール・体育館はどのように配置されているか
- ③職員室や保健室はどこに配置されているか
- ④非常口や避難経路はどこにあるか

学校の設備は、それぞれの機能が十分に発揮され、しかも生徒に教師の目が届くように配慮されていることを自分の目で確かめましょう。



4つの力についてそれぞれ説明を行いました。4つの力に関して、どの時期に具体的にどのようなことができれば良いのか、またできるようになることが求められているのかを示したのが75頁の教職実践ポートフォリオです。教職実践ポートフォリオに基づいて定期的に自らの力を自己評価し、自己課題の克服に取り組むことで、ESDの理念を持ち、4つの力で構成される教育実践力をバランスよく備えた反省的で創造的な教員へと近づいていくことでしょう。